

いもう 葦毛通信



令和元年10月16日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 87

シオヤトンボ♀

1、2019年の大規模植生回復作業を開始します！

葦毛湿原の大規模植生回復作業も平成24年度から開始し、今年で8年目になりました。今年度も11月5日（火）から作業を開始します。作業は11月から2020年3月まで、年末年始を除く毎週火曜日の9～12時、毎月第3日曜日の9～12時に行います。

また、葦毛湿原と同様の植生回復作業を行っている豊橋市指定天然記念物「ナガバノイシモチソウ自生地」では、11月から毎月第3火曜日の13～16時に作業を行います。これ以外にも作業の進行状況を見ながら随時必要な作業を行う予定です。

どちらの作業も公開しており、葦毛湿原では木道の上から、ナガバノイシモチソウ自生地はフェンスに囲まれているのでフェンス越しになりますが、自由に見ることができます。興味のある方は是非ご覧ください。

また、植生回復作業に参加いただけるボランティアも募集しています。興味のある方は豊橋市文化財センター（0532-56-6060）までご連絡下さい。

昨年はバックホーによる抜根作業を約6,700㎡行いました。作業直後は植物が全くなくチャートの礫が目立つ裸地になりました。大変荒れた状態に見え、植生回復作業を行って入る時に現地で自然破壊であるという意見を述べられる方もいました。現在は、一



昨年の植生回復作業（2018年11月13日）

年目で徐々に湿生植物等が復活している状態です。場所ごとの地質条件や環境の違いによって異なっていますが、概ね3年程度で湿地部分は良い状態に復活してきます。やや乾燥している部分は植物の復活が少し遅いようですが、一の沢では3年目にヤマハギが多く出現し花を咲かせています。また、サワギキョウは分布を広げ、一の沢の下流部分や湿原中央部でも見られるようになりました。

葦毛湿原では、大規模植生回復作業開始後、ハルリンドウ、ミカワバイケイソウ、カザグルマ、ミズギボウシ、トキソウ、サギソウ、サワシロギク等が増えて湿原のあちこちで多くの花を咲かせるようになりました。現在はスイラン、シラタマホシクサが見頃になっています。

大規模植生回復作業は木の伐採・運搬、ネザサ等の除草、外来植物の駆除等が中心になっています。ご参加いただければ、葦毛湿原の再生状況を詳しく見ることができます。ぜひ、多くの方にご参加いただきたいと思います。

2、2019モニタリング報告－4

1) サギソウ

今年は湿原の各地でサギソウが多く開花しました。サギソウはこれまで開花数を計測したことが無く昨年と正確な数を比較することができませんが、8月3日に249輪、8月6日に409輪が確認できました。昨年の2倍程度にはなっているのではないかと思います。サギソウは葦毛湿原の広い範囲で開花が見られるようになり、特に今年はイノシシ対策を行ったB地点で増えています。B地点では8月6日には78輪の開花を確認しています。

2) B地点イノシシ実験区

B地点はウメバチソウの復活のために、2019年3月17日にテグスを四重に巻く実験を行っています（葦毛通信 No. 82 参照）。これまで、約7か月過ぎましたが、テグスは一度も切られていませんでした。しかし、実験区の北東隅で1m四方ほどの範囲がかく乱されました。テグスは切られていないので、おそらく、イノシシの子供（ウリボウ）が木道上から



B地点イノシシ侵入状況・北東隅・北西隅（2019年10月16日）



B地点イノシシ侵入状況・南側（2019年10月16日）

侵入したものと思われます。その後確認したところ木道側の北西隅が一か所、南側が三か所切られていました。いずれも最下段が切られており、下から潜り込んだものと思われます。南側では切られていないところからも侵入されたところがあり、やはり下から潜り込んだようです。所によっては最下段の下に間が空いているところがあったので、最下段の下にもう一段テグスを設置して5段にしました。イノシシの侵入はまだ一部だけで、昨年のように全体を何度もかく乱されたわけではありません。

B地点はイノシシのかく乱を防いだことにより、8月にはサギソウが多く咲き、9月になりシラタマホシクサも白い絨毯のようになっています。このまま、ウメバチソウも復活してくれることを願っています。

3、2019年のナガバノイシモチソウ-2

ナガバノイシモチソウは10月15日現在でまだ1000輪以上咲いています。今年も10月になっても暑い日が続き気温が30度近くある日もあります。冬から春にかけて30年に一度の大渇水で発芽が遅れ個体数も少なくなりましたが、その後気温の高い日が続き各個体の成長は良いようです。

個体数は10月7日の計測で9,425個体あり、一昨年の2017年とほぼ同じような数です。しかし、開花数は2017年と比較すると明らかに増えています。

開花数が増えたのは、各個体の成長が良いために一個体あたりの開花数が増えたためと考えられます。

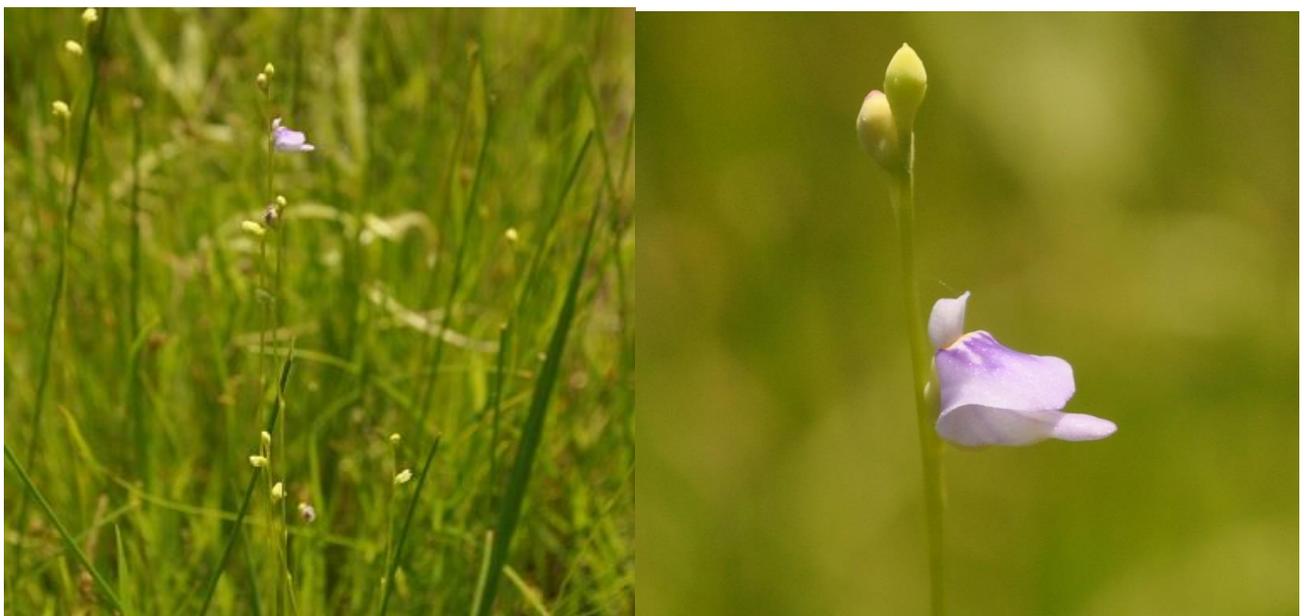


第1地点全体（2019年8月22日）

1) ホザキノミミカキグサの出現

8月20日に第1地点の西側から北側の部分でホザキノミミカキグサの開花を確認しました。ナガバノイシモチソウ自生地では、これまでホザキノミミカキグサは確認されていませんでした。今回が初めての確認になります。1971年のナガバノイシモチソウの発見以来50年近くが過ぎていますが、今まで一度も確認されていなかったのも、埋土種子からの発芽の可能性は低いと考えています。

最も可能性が高いのは、葦毛湿原の種子を意図せずに持ち込んでしまった可能性です。葦毛湿原でも植生回復作業を行っていますが、同日にナガバノイシモチソウ自生地でも作業を行っている場合があります。また、葦毛湿原で使った長靴をそのままナガバノイシモ



第1地点のホザキノミミカキグサ（2019年8月22日）

チソウ自生地でも使っており、葦毛湿原で長靴等に付着したホザキノミミカキグサの種子を意図せず持ち込んだ可能性が高いと判断しています。

ナガバノイシモチソウ自生地で開花したホザキノミミカキグサのあるところは、散水はしていますが地中の水分はそれほど多くなく、シルト質でかなり硬い土のところ。地表面の表土も薄く、地中の補虫囊で動物性プランクトンを捕獲する食虫植物であるホザキノミミカキグサがこんな環境のところで生きていけるのか、驚いてしまいます。葦毛湿原ではホザキノミミカキグサはわずかに土が溜まって浅く冠水しているところに多く見られます。ナガバノイシモチソウ自生地とは相当異なった環境のように見えます。

2) ナガバノイシモチソウの種子採取

今年度からナガバノイシモチソウの種子を採取して保存する事業を始めました。10月15日に第1～7地点で、地点ごとに花茎を一個体に付き1個で5～6個体で採取を行いました。ナガバノイシモチソウは発芽後、茎をのばして繊毛のある補虫葉が数枚出てから花茎が伸びていきます。大きな個体では一つの花茎に10個程度の花が咲きます。同様にして茎が伸びていき、最終的に4～5本程度の花茎をつけます。最終的には20～30cm程度まで伸びますが、直立せず地面を這うようにして伸びていき、直立する部分は15cm程度です。そして、最初の花茎が熟すと種を落とし下から花茎や葉が枯れていきます。

下の写真は長さが20cmほどに伸びている個体で、珍しく種子をつけた花茎が3本残っています。下右写真の上から5花、6花、7花が付いている3本の花茎（赤い矢印の先から伸びている）が確認でき、下の花茎は鞘が割れて種子が散布されています。これより下は補虫葉と花茎は枯れており、根元も倒れて地上を這っています。

種子採取は今後病気の発生等による全滅の事態に備えて種子を保存することが目的です。今後毎年続けていくつもりです。今回の作業では、すでに枯れてなくなってしまった花茎があるようなので、来年はもう一か月程度は早く種子採取の作業を始める予定です。



ナガバノイシモチソウ結実状態

3本の花茎（2019年10月16日）